2018
10
Vol. 20

東北工大建築学科 Monthly Report of Department of Architecture 通信

TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY DEPARTMENT OF ARCHITECTURE

発行：東北工大建築学科　学科長　石井敏

Pick Up News 秋も深まってきました。建築学科では講演会など、日常の授業とは異なる学びの場をいくつか用意していきます。9月槻橋先生の講演会に続き、東京スカイツリーの照明計画でも有名な戸恒浩人さん（シリウス）の講演会を実施しました。11月には建築家・藤本壮介さんの講演会も決定しています。本学科学生も事前申込みが必要ですので、ポスター等で確認の上、申し込んで下さい。現在、4年女子2名が台湾の中原大学に留学中です。2ヵ月間の予定で、卒業設計の課題について現地の学生とともに学んでいます。そして11月には中原大学から2名の留学生を迎え入れます。国際交流は建築学科が力を入れている活動の一つです。留学を目標にして頑張るのもよいでしょう。3月の海外研修旅行は今年は中国（北京・上海）。世界を知ることで今の日本が見えてきます。多くの参加を期待します。

【新井准教授が副代表を務める特定非営利活動法人がグッドデザイン賞を受賞！】
受賞対象名は「震災復興支援 ／ コミュニティ・デザイン[復興コミュニティデザイン]」。新井研究室で継続的に取り組んで来た研究や活動もその受賞の基盤となっています。「震災後の仮設住宅から、災害復興公営住宅への移行時の検討、公営住宅での活動と、継続的にコミュニティづくりを実践してきたことの意義は大きい」という選考評です。 →

【建設通信新聞記事】9月18日の槻橋修先生による講演会「プレイスメイキング：場を受け継ぎ、育てる」について、建設通信新聞にて記事にしていただきました。 →

東北工大建築学科

槻橋氏を招き講演

まちづくりの考え方学ぶ

東北工業大学（仙台市、今野忠男学長）の工学部建築学科は、神戸大学院准教授を務める槻橋修ティーハウス建築設計事務所主宰を講師に招き、仙台国際センターで講演会「プレイスメイキング：場所を受け継ぎ、育てる」を開いた。同学科全生徒約560人が参加し、槻橋氏のまちづくりの考え方などを学んだ。

槻橋氏は、まちづくりのコンセプトに多様な人々が快適に住み続けることができる「Livable City」の考え方を軸に据えて講演。このコンセプトを成し遂げるためには▽道路が移動空間以外でも活用できるなど、都市機能が「多機能」である▽それらの都市機能が「見える化」されている▽地域住民が気軽にまちづくりに参画できるよう「表現の機会」がある――の3つの機能が必要と説明した。

その上で、コンセプトを実現するために取り組んでいる事例として、仙台市から受託している（仮称）公園センターの設計概要などについて解説した。

公園センターは、仙台藩政時代に武家屋敷・旧片倉家邸があった青葉区通町地区の歴史と青葉山の麓としての立地などを生かし、同地区の敷地が約3ヘクタールに整備される。このため「さまざまな歴史が積み重なった地であり、仙台に住まう人などにとって自慢の場所したいとの思いから、設計に当たっては多様な人が関わって『場所をつくる、育てる』というまちづくりの手法『プレイスメイキング』を導入して取り組んでいることを紹介した。

設計業務はティーハウス建築設計事務所・グラック・文化財保存計画協会JVが担当している。

←【建築学科一同での写真撮影】9月18日、仙台国際センターでの全学年オリエンテーションにおいて、集合写真を撮りました。建築学科全学生560名余が一同に会する機会は、2年前の学科50周年以来でした。

藤本壮介氏（建築家）講演会
Comimg soon!
2018/11/18（日）@せんだいメディアテーク　申込み受付中！

【中原大学留学派遣】留学派遣は今回で10年目。今年も女子2名が中原大学に留学しています。2ヵ月間、台湾で設計活動をしてきます。 ↓

←【戸恒浩人氏（照明デザイナー, SIRIUS LIGHTING OFFICE代表）の講演会開催】 9月27日に開催された「暗躍する照明デザイン」と題されたこの講演会は、本学科学生のためにお招きして実現した企画です。建築学科の学生約100名が参加しました。

Pick Up Lab. **船木研究室**では、木造住宅の耐震性向上を目指した新たな補強システムを考案し、その効果について、実大規模の骨組を用いた加力実験により検証しています。実験は、県内の工務店の協力を得て、研究室所属の４年生と大学院生が中心となって行いました。失敗の連続にめげず、最後まであきらめずに取り組んで得られた成果は、昨年度、文部科学省主催の『サイエンス・インカレ』の発表論文に選抜されました。これは、全国の理系学生を対象とした自主研究の成果を発表し競い合うイベントです。現4年生も先輩の後に続くことができるよう、それぞれの研究テーマに取り組んでいるところです。

実験の様子

サイエンス・インカレでの発表の様子

M2 髙橋 雅人くん
宮城県工業高校 出身

Pick Up Student 今年、とある展覧会の会場構成の仕事を担当させて頂きました。あたりまえのことですが、会場構成をしたことのない私にとって、この経験は宝物になりました。この仕事でも、いま取り組んでいる修了制作でも「こうである」という取り決めをつくらないようにしています。その取り決めの中では決して生まれない「こうでもある」「こうかもしれない」という素敵なひらめきの瞬間に立ち会うことができると思うからです。すごく突飛なことを、この小さな文章の中で言ってしまっていますが、僕の中で大切にしている考えの１つなのだと思います。そして、自分以外の誰にでも「こうかもしれない」と読み替えてしまうことができる、そんな建築をこれからも考えていきたいです。

1年鎌田 勝太くん
古川工業高校 出身

Pick Up Student 私は高校でも建築を学んでいましたが、明確に将来やりたいことが決まっていた訳ではありませんでした。そこで、学べることはなるべく吸収して将来の選択の幅を広げたいと思い、大学に進学しました。そのため、講義で、友人との関わりで、課外活動の中で、様々なことを見たり聞いたりできて今はとても充実しています。特に課外活動では、学内の学生有志で活動している学生有志団体Colorsと、学外では卒業設計日本一決定戦を運営する仙台建築都市学生会議に所属しており、活動を通して建築の知識をメンバーと楽しみながら深めることができています。夏休みが明け、後期からは自分で設計する課題が始まっています。雑誌などでたくさん建築物を見て自分の設計の質を高めていきたいです。